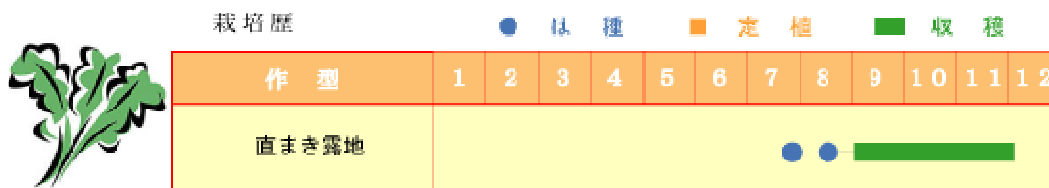


しゅんぎく



栽培ポイント

(1)は種時に**寒冷紗**被覆を行い、高温や乾燥による発芽不良を防止しましょう。

品種・播種

■ は種期

7月中旬～8月中旬

■ は種

畦間120～150cm、高さ5～10cmのベツに、条間18～20cmの条まきします。

寒冷紗はポリエステルなどでできたレース地のような布地で、一般に遮光用にするが、防寒や防風、水分の蒸散防止などの目的でも利用される。

栽培管理

■ 間引き

直まき栽培では本葉5枚時に2回目の間引きを行い、15～18cm間隔にし、しっかりした株をつくりましょう。

■ かん水

乾燥させないように適宜行います。10月下旬頃からは地温を下げないように晴天日の午前中に行います。

■ 追肥

原則として株の状態を見ながら行うが、一般的には収穫後4～5日目位に行います。1回当たりの施用量はNK化成で10kg/10a位とします。

■ 保温

10月下旬頃から夜間の保温のため、寒冷紗等で被覆します。

主な病害虫と防除対策

■ 炭そ病

露地栽培は、株間30cm、条間60cmの1条植えとします。

葉、茎や果実に、黒い病班をつくり枯死させる病害で、発生すると被害の進行はかなり早い。銅製剤やジネブ剤が効く。

■ べと病

気温15～20℃の多湿条件で発生しやすいので、密植・過繁茂を避けます。肥切れ等により株疲れさせないようにします。

気温20 くらいで多湿の時に特に発生しやすく、葉に褐色の斑紋をつくる。薬剤で防除するか、敷きワラをして雨滴のはね上がるのを防ぐとよい。

■ アブラムシ類

寒冷紗被覆育苗を行い、生育初期の防除を徹底します。

■ マメハモグリバエ

秋が暖かいと発生が多くなるので、薬剤で防除します。

■ ネキリムシ

野菜の連作地で前作をすき込むと発生しやすくなります。

■ ダニ類

乾燥すると発生しやすいので、適宜かん水を行います。

収穫

主枝が25cm位に伸びた頃、本葉4～5枚を残して収穫(摘心)します。その後は側枝が25cm位に伸びた頃、葉を2枚残して順次収穫します。収穫時、1株に2～3本は側枝を残しましょう。